

## 第 4 回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要点

日時：平成 28 年 10 月 20 日（木）18：00～20：00

場所：日野市役所 505 会議室

## 日野市の現状と課題の整理

- ・土地利用の変遷による現状整理

要点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市全体で自然がどうなのか、課題がどうなのかという整理が必要である。</li> <li>・雑木林は薪炭林を利用しなくなった社会の構造変化が原因で劣化している。これは用水についても同様であり、農業の衰退によって用水がかつての役割を失い環境が変化している。人々が過去の生活に戻ることは難しいため、時間軸を元にした過去と現在の課題整理も重要である。</li> <li>・日野市全体の変化は生活の変化もあれば、土地利用の変化でもある。そのような全体の変化を書き加える必要がある。</li> </ul>
対応方針	日野市全体についての土地利用の変遷による現状整理は今回の委員会でお示しする（資料 3）。

## 基本理念の検討

- ・基本理念の内容について

要点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市は水とみどりを大切にする視点が既存計画にあるので、生物多様性はしっかり考えないといけないまちである。継承する視点も既存計画には記載されているので、この部分は踏襲することが正攻法ではないだろうか。</li> <li>・人と生きものが共に暮らせるまちであることが日野市の魅力である。その部分が考えの根底にあるはずなので、その視点を明確にしてはどうか。</li> <li>・上位計画の基本理念には「市民が主役」とあるが、生きものも日野市に住む一員だという視点があればしっくりくるのでは。</li> </ul>
対応方針	委員のご意見をふまえて、基本理念の事務局案を作成した（資料 4）。

## 基本方針の検討

- ・基本方針の内容について

要点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使う」は生物多様性を活用することが含まれるが、「つくる」と「育てる」は活用には結びつかない。これらは「守る」に含めた方が良い</li> <li>・前回の委員会で大切だと感じたのは、人々の関心を高めて興味のある人を育てること、人と自然の関わりを保つこと、日野市の特徴を理解しその特徴を守ることである。基本方針として採用するのは、そういった文が良いのではないか。単語だけでは抽象的であり、混乱が生じやすい。</li> <li>・「関心をもつ」、「かかわりを持つ」、「守り育てる」等の書き方が適切である。その際は何に対してなのか、対象を示した上で記載する。</li> </ul>
対応方針	委員のご意見をふまえて、基本方針は「人々の関心を高める」、「人と自然の関わりをつくる」、「日野らしい自然を守り育てる」を新たな事務局案とした。

## 目標・施策の検討

- ・目標・施策を検討する順序について

要点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標は施策や行動計画が明らかになったうえで、数値目標を設定する場合もある。必ずしも目標を定めた上で、施策や行動計画を定める必要は無い。目標と行動計画を並行して進めた方が良いのではないだろうか。施策を考えるうえで重要なのは、課題がどうなのかである。困ったことや問題となっていることに対しての施策であるので、施策を決めた上で、その後に目標を設定してはどうか。</li> <li>・それぞれの委員は専門分野を持っている。課題に対しての意見は各々が持っているはずなので、その意見を集めたうえで課題と施策の整理を行ってはどうか。一番大事なのは行動計画であるので、より具体的に誰が実施するかも検討する必要がある。</li> </ul>
対応方針	課題となる施策を整理した上で目標の検討を行うこととした。第6回市民参画部会（11/17）では市民委員から日野市の課題となる意見の収集を行った。その結果と、これまでの委員会で行われた日野市の課題を整理した上で、課題を解決するための対策を施策とし、課題の裏返しとなる事柄を目標として施策体系（案）の作成を行った（資料5）。